

日刊 動労千葉

87. 1. 26

No. 2461

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

『4月1日』 新たな陣い 爆発-開始の日

一、三月の攻防戦を必ずみちぬき、分割・民営化反対10万の陣い隊列は勝利へ進撃する

中曽根・国鉄当局は、いま「四月一日」をなにごともなくのりきることができるか、どうかに戦々恐々としている。敵の狙った「国労丸ごとの屈服」は大失敗し、動労総連合の登場によって中曽根の分割・民営化のねらいは国鉄労働運動破壊は破産し、動労革マル松崎が手を振ってまかりとおっていた情勢は確実に転換しだしている。国鉄決戦をさらに強化し分割・民営化を阻止しよう。

破綻にぶち当たってしまった

中曽根の 行革一 国鉄攻撃

勝利のカギは、一、三月の組織攻防の成否にかかっている。中曽根・杉浦にとつてこれまでの四年間の国鉄攻撃の一切合財をかけた攻撃と真向かに対決し、組織攻防戦に勝ちぬくことである。

中曽根の分割・民営化攻撃はすでに破綻の危機と矛盾にみちみちているがゆえに焦り、一層凶暴化し、「最後の切り札」＝差別・選別・振りわけの実施過程をフルに活用し、最後の最後まで国鉄労働運動破壊の大目的を何とかつらぬこうと、全体重をかけた攻撃にできている。

「直営売店」「五七子科・EC転換」「昇職試験面接」などで不当労働行為による組織破壊攻撃もその一環としてある。

こんな劣悪条件下で生きて

行けるか!! ——「新会社」

中曽根は昨秋、国鉄法案の強行成立にもとづき設立委員会を発足させ、昨年十二月十一日には新会社への採用基準を決定した。それは「新会社にふさわしい者」「勤務実績にもとづいて」とかい

い「職員管理台帳」「特定職員調査表」などを使おうとしている。十二月十九日、新会社の労働条件が発表された。その特徴は、労組破壊と労働者の団結を破壊するねらいをもった徹底した能力主義、成績主義につらぬかれている。賃金は、昇格試験と勤務成績によつて格差が拡大する形になつており、退職金にいたつては、第二基本給制度導入で大大幅ダウン。諸手当は、これまでの諸既得権の剥奪によつて大幅カット。五十五才定年制の導入。有給休暇の大幅制限、資本の判断で自由に解雇ができる制度の導入、まさに劣悪な労働条件下に労働者はおかれるのである。

闘いはこれからが本番

一、三月決戦を全員で勝ちぬこう

この激しい攻撃にさらされながらも今日、いまだ十万人に近い国鉄労働者が「分割・民営化反対」の旗を堅持したまま「新会社」体制を直撃する型で闘いを続行しているという事は、実に決定的に重要な勝利的現実である。それが、この新会社の劣悪な労働条件に反撃する力をいまだ保持していることである。

「四月一日」からは不満が必ず爆発する。労働条件・賃金の切り下げは、経済闘争、労働条件をめぐる闘いへと行きつくことも必至だ。

そして、決定的なことは分割・民営化の矛盾破綻が誰の目にも明らかになるのも「四月一日」以降である。

だからこそ政府・国鉄当局は一月末～二月上旬・候補者名簿提出、二月中旬・設立委が選別採用決定、三月上旬・配属先決定、三月下旬・具体的配転と最後の最後まで国鉄労働者を不安にかりたて、そして揺さぶり、完全屈服を強要しているのだ。まさに、この一、三月の組織攻防の成否が四月以降の全情勢を決定し、ひいては日本労働運動の全未来を決する。

勝利への糸口は、今、はっきりとわれわれの目前に姿をあらわしてきた。一、三月、全組合員が歯をくいしばって闘いぬぎ、そして勝利しよう。



昭和62年資証第2号

証明書

法人登記に係る昭和61年12月26日付けの国鉄動力車労働組合総連合からの申請について、次のとおり証明する。

労働組合名 国鉄動力車労働組合総連合
事務所所在地 千葉県千葉市要町2番8号

標記組合は、労働組合法第2条及び第5条第2項の規定に適合するものであることを証明する。

昭和62年1月20日決定

昭和62年1月21日交付

公共企業体等労働委員



87年は「動労総連合」-「国労共闘」を先頭とした「分割・民営化反対」派10万隊列の大進撃の年だ! 1月20日、遂に「総連合」が公労委正式認知された。